館報 おおくま

おもな内容

2面…新年のごあいさつ
3面…新年への期待
4面…青少年を健やかに
5面…家庭教育学級
6面…公民館活動あれこれ
7面・8面…みんなの広場

発行編集　大熊町公民館
印刷所　新栄社写真美術印刷

羽子つく稚姉妹

美しい、なまめかしいほどに
晴着姿の稚姉妹
パッチン、パッチン……
羽子をつく音、はしゃぐ声
その音がハタと止んだとき
その声が聞こえなくなったとき
お母さんはそっと覗いてみる
「ナナちゃん、早く拾って
もう疲れちゃったの」
じーっとみつめる姉のまなざし
それは妹への
おもいやりのまなざしか
元旦の陽はふりそそぐ
すくすくと育てよとばかりに
元旦の風はささやいていく
幸せに育てよと
羽子つく稚姉妹に

（写真は美香ちゃんと奈々ちゃんの羽根つき）

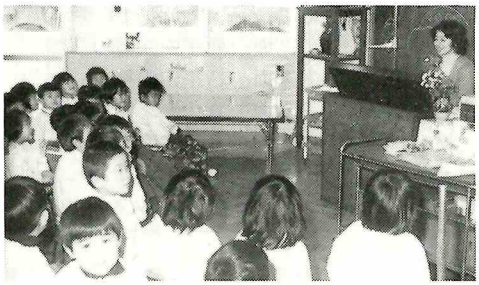
新年のごあいさつ

教育長　太田芳一郎

あけましておめでとうございます。昭和五十四年の年頭にあたりまして、町民の皆様方にごあいさつを申し上げます。昨年度の教育行政執行につきましては、町長さん始め町議会、そして、町民の皆様方のご支援とご理解とを賜り各種事業が円滑に進展いたしましたことを心から御礼申し上げる次第でございます、今年度の教育委員会重点施策については、新学年度の四月から実施できるよう三月までには計画を策定いたしますが、今年度の数育行政推進の考え方の概略を申し上げたいと思います。

＜幼　児　教　育＞

幼児教育については、文部省指導として、昭和五十七年度までには、幼稚園への入園希望者は、全員が就園できるよう施設設備の整備を急がせております。当町においては昨年三月、熊町幼稚園が新築完成し、大野・熊町両幼稚園が完備いたしまして、就園率も九十五・三パーセントと、郡内一の完璧さを誇っております。



町の幼児教育（熊町幼稚園）

＜学　校　教　育＞

次に学校教育についてでありますが、明日の大熊町を背負う児童生徒の育成であり、町施策の最重点事項でなければならないものと信じます。過般、教育課程の改訂が示されましたが、それは学校生活に「ゆとり」をもたせることをねらいとしてはおりますが、さまざまな教育活動を通じて、周囲から自分を伸ばそうとするものを身につけさせてゆく、という考え方が必要であると指導されております。当町学校教育の進め方としては、特に道徳教育と児童生徒の健全育成のための生徒指導、この二点を重点項目として進めて参りたいと思います。なお、熊町小学校においては先生、生徒、そして父兄が共に汗を流しながら環境整備に努力した結果、学校環境緑化で県知事賞を受賞しましたことは、喜びに堪えないところであり、協力してくださった関係者各位に御礼申し上げたいと存じます。

大野小学校改築は、本年度の教育委員会最大の重点事業としてとりくみます。中学校においては、体力つくり推進校として、昭和五十一年度に文部省指定を受け、生徒の体力つくりに多大の成果をあげましたが、さきほど全国学校保健体育優良校として、文部省より表彰を受けましたことは、よろこびに堪えません。今年度は、この成果を更に学力の向上にプラスされる指導を進めたいと思います。

＜社　会　教　育＞

最後に社会教育への期待は大きいものがあります。東電誘致以来大きく変ぼういたしました大熊町、社会構造の変化も加えて家庭も働く主婦が増え、家庭教育不在もあちこちで聞かれるほどに環境が変って参りました。ここで考えなければならないのは「家庭を集団訓練の場としての機能を向上させること。」であり、この環境の変化に対処するためにも、あらゆる機会を利用して絶えず学習する必要があると思います。生涯教育が叫ばれるゆえんはここにあるのだと思い、社会教育事業の拡充整備を図ることを推進いたします。

なお、町史の編集は順調に進めておりますが、資料提供のご協力を切にお願い申し上げますと共に町民の皆様方のご健勝をお祈り申し上げまして年頭のごあいさつといたします。

よみがえれ笑顔のあふれる町

公民館長　高野昭二

紅白歌合戦の興奮も漸く醒め、心の底にかすかに残る除夜の鐘の余韻のみが「年」の明けたことを感じさせる。静かな元旦である。

明けましておめでとうございます。

町内のみなさんには輝かしい最良の年を迎えられたことと衷心よりお祝いを申し上げます。昨年は社会教育を担当している公民館に対し深いご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げますと共に今年もまた変らざるご厚情をお寄せ頂きますようお願い申し上げます。

さて今年は「羊年」でございます。「羊」という字によって連想される言葉に「羊頭狗肉」という言葉がございます。漢和辞典をひいてみると「羊の頭を看板に出して犬の肉を売ること」で、立派そうに見せかけて卑劣なことをする譬と記されてありました。その隣りの項には「羊ヲ亡ッテ牛ヲ得」即ち小を失って大を得る譬、損をして得とるという意のそうである。現代の社会に激しく動き廻る人々の心の一面を譬えた言葉のように思えてなりません。

一年の計は元旦にありとか夫々新しい年のいろいろな計画を樹てていらっしゃることと思います。そのご計画の中に「心の計画」として

「一日一善」それが難しいとすれば「一週一善」でもよい。またそれも難しいとすれば「一月一善」でも良いと思う。どんなことでも、どんな小さなことでも社会のためになることを、他人のためになることをやってみようという、計画をもり込むことはできないものだろうか。そんなことをふと考えさせられる昨今である。

おとし寄りや子供に対する思いやりがない。凶悪犯罪は増える。交通事故は多発する。青少年の非行は目立ってくる。公園は汚れる海水浴場には汚物が散乱する。いかに環境が整備されてもそこに生きる人々の心がけが悪ければその目的は達せられないと思う。

公民館はこのような「道徳」とか「社会奉仕の心」などかけがえのない日本の美徳をもう一度よみがえらせ育てたい、そんな気もちで今年も各種事業を考え実施して参りたいと思います。

笑顔の溢れる町、幸せいっぱいの町のよみがえる日の一日も早からんことを念じ年頭のご挨拶といたします。

町内の皆さんのご多幸と益々のご健勝をお祈り申し上げます。

新年への期待

豊かで明るい町へ

公民館運営審議委員長　渡辺　清

輝かしい昭和五十四年を迎え、心からお慶びを申し上げます。

思うに大熊町公民館は法の制定によって昭和三十年十二月二十八日西名清さんを初代館長として発足いたしました。草創から現在に至る充実した活動、めざましい進展は洵に慶祝に堪えません。当時は戦後すべてに荒廃した激動の十年間でありようやく自己を取り戻し地域社会の協調や自己啓発を模索し、求めようとする大きな流れの時代でもありました。この秋いち早く公民館活動を推進された先輩諸賢の炯眼、勇気、実践に対しまして敬虔に額づきたい思いがいたします。さて社会教育活動の殿堂であります公民館を主軸とした運審委員会におきましては本町が原発の町として躍進十年、地域社会の経済文化構造に大きな変ぼうを来たし県内優位の確固たる地歩を占めるに至った事実、更に多岐多様な世相の変化に調和ある対応や、家庭生活と密着した郷土的情操の高揚、また生涯教育における段層縦割横割の連携強化など幾多の社会教育的要素からより良い選択と実行によって犯罪のない、豊かな、明るい町、大熊を築くべく、我が町の公民館、皆さまの公民館でありますよう正しい理解をふまえて広く皆様のご指導ご鞭撻を仰ぎたいと存じます。

環境づくりとゆとりある学習を

熊町小学校長　紺野　義尚

現今の教育ママさんは、わが子が学校から帰宅する時刻になると、そわそわしだす。

『ただいま』の声と同時に玄関を飛び出し『今日テストがあったんじゃない』『何点ぐらいとったの』とたたみかける。子どもにすれば五、六時間も真剣に活躍しているのだから当然疲れている。休みたい。愛情のこもった　おやつが欲しい。

ああそれなのに　無情にも連続的に子どもの耳をよぎる　勉強勉強……。（次の詩は幼児の作品）

おにいちゃん　テストが
百てんだったんだよ
お母ちゃん　一日じゅう
うれしがってんの
じぶんの百点じゃないのに
おかあちゃん　ちょっと
おかしいよ。

校庭の片隅によくテストが投げ捨ててある。百点のものはない。殆んど五十点以下である。

悪いテストを見たら母親は悲しむだろう。自分の一番信頼しておる母親を裏切りたくない。幼き子どもの母を思う現象として、この投げられたテスト用紙を拾ってるむごいことです。

末の子（東大三年）が夏休みに帰宅した。彼の勉強部屋に数冊の専門書が開いてある。父親の威厳と茶目けもあってパラパラと頁をめくると私の大嫌いな横文字である。

一頁も解読が出来ない。

さて私は家内と約束して小学校入学当初より、勉強は子どもの力で宿題や教科書についての質問は一切おことわり。先生が担任が一番偉いのであって、多少の誤字や筆順などとやかく言うなと家内に話しておる。お陰様をもちまして三人の子から一回の質問もなく親の権威を保持しておる。

ただ参考書や年鑑、図鑑、世界文学全集等の購入には、仙台や平にも同行して子どもの選択に協力する労はおしまなかった。親と子の対話や健康管理や、環境づくりに努力するのが親としての義務でなかろうか。

相手の立場を考える

大野幼稚園教諭　青木　カツ子

除夜の鐘を耳にしながら「あけまして、おめでとう。」の挨拶が交わされる時、いつも心の中で呟く言葉がある。それは「常に、相手の立場に立って考え、また行動する」という言葉です。これは、昔から多くの人々に言い古された、当たり前の考え方ですが、このあたり前の考え方を、どれだけ正しく判断し、実行できるだろうかと、自己を省みる時、思わず、この言葉の前にうなだれてしまう。ましてや「単に、相手の見方、気持ちに、完全に迎合するということではなく、深い理解力を持つとともに、自分の主張をも立てる。」という意味に解した時には、殊更、頭を垂れる思いです。

そして、幼稚園に勤務する私がこれを実例にあてはめて考えた場合、大いに心にしみる言葉となるのです。

例えば、受けもつ子供の悪戯を注意する場合、わがままな子供をたしなめる場合、喧嘩の仲裁に入る場合等々。全て、この言葉に立ちもどって考えなくてはならないことに、驚かざるを得ません。常に納得し、相手の見方、考え方に同調するだけでは、それ以上の進歩を見ることができないばかりか、互いに飽き足らないものを感じ、自ずと信頼関係も失わせてしまう。だから、自己の主張をもつということは、やがては正しい判断力をもつとともに、相互の信頼関係をも、生みだすものになるのではないだろうか。　と思いつつも、暮れゆく年月をふりかえり、今年こそは、とまた元旦の朝に思うのである。

商工会発展のために

商工会青年部長　松本　実

新年おめでとうございます。日頃は商工会加入店をご利用頂き誠にありがとうございます。新年にあたり当商工会青年部の一員として抱負の一端を申し述べる機会を得ましたことは光栄に思う次第です。町の発展向上には幾つかの要素がありますが、その一つとして商工会、即ち商店及び商店街の発展が当然含まれなければなりません。工業も勿論であります。この様な観点から我が青年部は後継者育成は勿論ですが、対外的にも微力ではありますが、事業活動を遂行しております。新年への期待として二点ほどあげて見たいと思います。第一点は道路の問題。第二点として企業誘致の件であります。現在の車社会において、道路網の整備、駐車場の完備が、不可欠の条件でありますが、駅を中心とする市街化の立遅れが目立ち、朝夕のラッシュ時には道路の横断にも困難をきたす状態であります。この様な現況から一日も早く解消されるならば、交通事故の減少は勿論、ショッピング等も安心して出来るのではないでしょうか。次に企業誘致の件であります。現在も大企業の進出で、当町は勿論のこと、他町村も財政的な恩恵を受け、道路の整備あるいは庁舎の建設、各施設の整備等が着実に行われている事は我々町民にとっても喜ばしい限りであります。企業の誘致により、労働力の確保が考えられ、出かせぎ問題も解消されるのではないでしょうか。労働市場が確保され、我が家から通勤できるならば、親子一緒に生活ができ、経済的には別としても、目に見えない幸福感があるのではないでしょうか。以上簡単ではありますが、新年への期待を申し述べましたが、これらの諸問題が着実に一歩一歩実現されるならば、住み良い大熊町が完成されることでしょう。

地域とのふれあいを

青年会長　松永秀篤

私たちの青年会も年を重ねて、今年で十一年目になります。十年ひと昔と言われますが、過去をふりかえってみれば、年を追う毎に会員数が減り、活動範囲も狭くなってきたような気がいたします。

年度の初めには、色々と計画するのですが、いざ実行する段階になりますと、会員数が少ないためなかなか思うようにいきません。別に入りづらい会でもないのですが……。今、年を新たにして考えることは、会員数の増加をはかるため、親睦会を多く持ったり、奉仕活動により地域とのつながりを持つことだと思います。特に奉仕活動は年五回程、主としてゴミの不法投棄処理や公共的な場所の清掃等です。その他スポーツ活動、学習会、町主催行事への参加協力等により青年会の存在を認めてもらう活動を展開することです。

また、各支部の活動としては、部落民との心のふれあいを密にするため交通事故防止運動や郷土芸能の保存活動に力を入れ、またレクリューションを行うなど地域といっしょになって活動したいと思っています。ただ残念なことは、支部数会員数が少ないため支部対抗のスポーツ交歓会などもいまひとつパッとしないのが現状です。今年こそは会員の緊密な連携により、楽しい充実した青年会にしたいと願っております。町内に住んでいながら言葉のかわせないひとりぼっちの青年からぬけ出すためにも、若い皆さんの理解と積極的な参加を強く希望いたします。

青少年を健やかに

社会教育指導員　木幡キサ

経済成長も、昭和四十七年のオイルショック以来、次第に下降し安定成長へと移行しつつある社会の中で、インフレ、企業倒産、失業、消費の不振等、不平等の上に立った平等の不安定さを感じさせられるこの頃です。新聞の記事やテレビの報道に目を転じれば、青少年の非行や自殺、交通事故等、私たち婦人として、子をもつ親として、誰しも胸の痛い思いがいたします。

十二月三日の夜、NHK青年の主張東北大会の様子をテレビで放映され、東北代表六人の青年が主張いたしました。農家の苦しさに耐えて立ちあがる父親の生活態度を見て、信頼と愛情から農業の道を選んだ農業高校生。また、看護婦として臨終の病人に自分の思いやりの心が通じた嬉しさ、また、身障者である自分は、困難を克服し普通高校に入った嬉しさ、そして、自主性を理解し認めてくれた父親の毅然とした態度等、素晴しい発表でありました。

県でも青少年を健やかに成長させるため「福島県青少年育成条例」を制定し、十月一日より実施されておりますが、これは家庭、学校、職場、地域社会と皆んなが手をたずさえて、青少年を健やかに成長させる責務を明らかにし、また、行政側（県、市町村）も横の連携をとり、施策をたてるという基本的なことが、細かく示され、これに違反した行為をすると罰せられるようになっています。

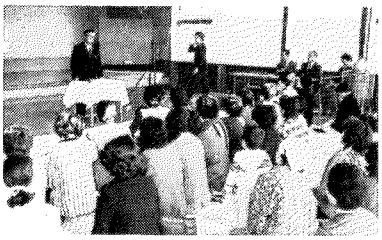
婦人会等においても、これに積極的にとりくみ、家庭の躾の基本より始め、家族の人間関係をよくし、少年が悩みを打ちあけ相談相手になれる親となり、子供の心に安定感を持たせるなど、自主性に富んだ青少年の育成と思いやりのある心の回復に努めたいと念じております。

明けましておめでとうございます

公民館報は、常に町民の皆様から親しまれるよう、努力しておりますが、今年も紙面構成などに充分配慮し、内容を充実させたいと思っており

家庭教育学級

家庭で育てたい思いやりの心



秋も終りに近づいた十一月二十五日、保育参観を終えた若いお母さん方三十数名が、家庭教育学級に出席し、熱心に勉強された。

当日は、浪江町社教指導員の矢沢一先生を講師に招き、体験を通した有意義な話しをいただいた。特に矢沢先生が老人の立場として傍観した現代のお母さん方の幸福への願望などを述べられた。この講話がたいへん勉強になりましたので概略を紹介します。

◎人間的価値感のある人に

人間は一人では暮せない。社会集団の中で幸せになりたいと願うのが民主社会のあり方である。現代のように高学歴化した時代において、学校を出ただけでは、人間的価値感のある人とはいえない。

尊敬される人格とは、学んだ知識が身について生活に役立つ人間として、教育が生きていなければならない。

◎女としての幸せをつかんでほしい

子供を生んで育てる喜び、これこそ女の特権ではないだろうか。女の美しさとは、母親として子供を生むことの出来る女らしさの満ち溢れている皆さんのような人を云うのだ。

◎思いやりの心はどこで育まれるか

私は教え子の結婚式に招待され大阪についた。式場が始めてなので戸惑い、通りすがりの若い方に何人か尋ねた。「さあ知りませんね」の一言で誰も教えてはくれませんでした。心身共に疲れ果てた末、最後に六十才を越えたと見られる老人が、庭の手入れをしており、尋ねたら「私が送ってあげますよ」と案内してくれ、ようやく目的の式場に辿りつきました。

帰りにタクシーの中で、このことを運転手に話すと、「お客さん頭が古いですね。それが現代社会の生き方ですよ。人の事をかまっていられませんよ。」といわれ、私は寂しさと空しさが、帰りの電車に乗ってもしばし消え去らなかった。これが都会の生き方なのだろうか……。

他人を思いやる心こそ家庭で培われるのだ。夫婦も、嫁姑も皆んな他人です。他人は肉親以上に溶けこむ努力をしなければならない。

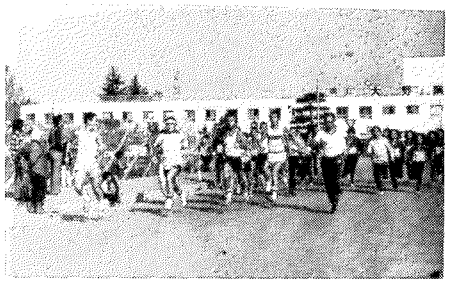
家庭の中で円満に暮す人間関係こそ思いやりの心が培われるのだ。ただ一度の人生を人の邪魔をしたり、羨んだり、悪口を言ったりしないで仲よく暮したいものである。

◎青少年を健やかに育てたい

近頃、青少年の非行や、高校生中学生の自殺がふえている。またそれが低学年の小学生にまで及び社会問題を投げかけているようですが、子供は大切な宝です。小さいうち（六才頃まで）にけじめをきちんと躾るべきです。自殺等の調査の中でも、母親不在、夫婦別れ、両親がそろっていない等をあげられるが、子供にとって母親の愛情こそは最良のもの。困った時迷った時の寄りつく港となってもらいたい。どんなに老いても母親の姿が心に生き続けている。そんなお母さんになっていただきたい。

以上のようなお話を聞き、若いお母さん方、母親の自覚を新たに次の学級に期待しつつ散会された。

マラソンで体力づくり



スタートから100m地点の力走ぶり

第二回目を迎えた町民マラソン大会は、去る十一月二十六日、大野病院前をスタート、北向を経由して野上（山神前）折返しのコースで行われた。当日は、穏やかな天候に恵まれ、マラソンには絶好の日和、集った選手たちはおもいおもいのユニホームに身を包みスタートの合図を待つ。午前十時スタートの合図と共に一斉に走り出す。そして、観衆の拍手を浴びながら折返し地点へと力走する。各選手は額に汗をにじませ激しいデットヒートを展開する。

その選手の姿には、スポーツで鍛えた美しさがみなぎっていた。

なお、上位成績は次の通りです

中学生男子（四粁）

一位　菊地弘幸　十四分十五秒
二位　小野弘道　十四分三十八秒

中学生女子（四粁）

一位　石沢　香　十八分二十四秒
二位　川井美樹　十八分二十五秒

高校生（八粁）

一位　浅野寅保　二十四分五十四秒
二位　中島洋一　二十五分十一秒

一般（二十九才まで八粁）

一位　二瓶俊治　二十六分四十秒
二位　石井正弘　二十八分五十秒

一般（三十～三十九才まで八粁）

一位　斎藤　猛　二十五分十秒

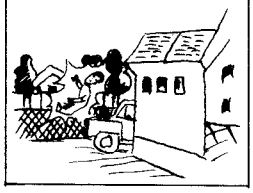
壮年（四十才以上四粁）

一位　加藤光久　十五分四十五秒
二位　大内正美　十六分五十九秒

交通事故0（ゼロ）への願い

新年は無事故で楽しい生活

曲り角
いつも危険が
かくれてる

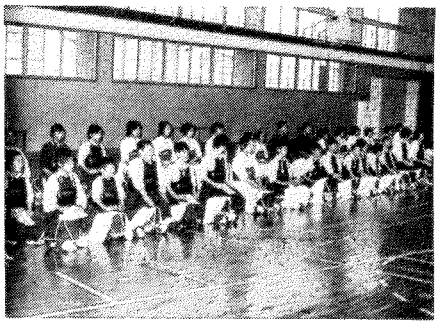


ます。お気づきの点、ご意見等、お寄せいただければ幸いです。

〈公民館報編集委員〉
松本幸一　井戸川佳正　志賀栄子　小林登　鎌田清衛　酒井正直

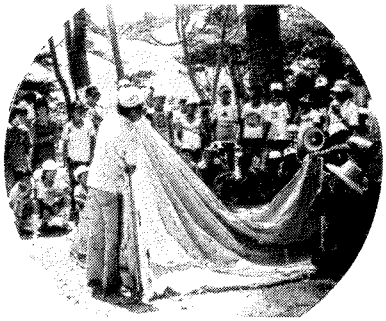
〈公民館報編集事務局〉
発行責任者　高野昭二
編集担当者　島晃重

昭和五十三年度 公民館活動あれこれ



＜子供たちと共に＞

キャンプ研修や、剣道教室、スポーツ少年団活動により、心と体を鍛える。また少年教育研究協議会を開催し、家庭教育、学校教育、社会教育の役割と連携のあり方を研究。

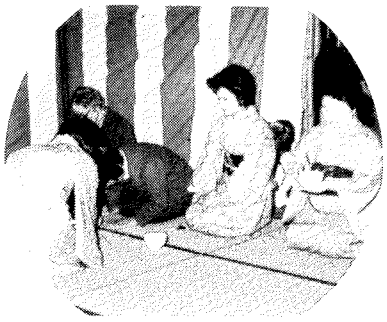


＜青年学級＞

町内の若い仲間と共に集い、教養を高める学習や奉仕活動等を実施。

＜茶道など九講座を開設＞

茶道、書道、着付等の九講座に青少年から、お年寄りまで大勢の方々が参加。



＜体力つくり活動＞

町民の融和と体力の増進を図ろうと、体育祭や各種スポーツ大会を開催。その他、郡や県の大会にも参加し、スポーツ大熊の名をあげる。

＜部落学級にも力を注ぐ＞

公民館を会場とする各種学級のほか部落学級にも力を入れる。写真は野上地区高令者大学。

民話 正直者の丹蔵

むかし。

大川原の山合いに丹蔵という若者が住んでいました。日夜家業に精を出して働いていましたが、家族が病気したり、火事にあったりして貧乏な暮しをしていました。近所の人々は大へん気の毒に思って、丹蔵を慰めたり、仕事の手伝いをしたりしてくれました。

しかし丹蔵は、ひとの世話になるのは男の恥、何とか人並の生活ができるようにと、毎夜山の神様におまえりをしていました。

ある夜、神様がまくらもとにあらわれて丹蔵に申しました。

「お前は正直者でよく働く。まことに感心である。よってごほうびをとらせよう。」と。

丹蔵は眼をさました。しかしどこにもごほうびはありません。夢なんだなと思いました。

その日は朝から雨が降っていました。何気なく、丹蔵は傘をさして外に出ました。つい先年火事で焼けてしまった土蔵跡に立って、ありし日を偲んでいました。ところが足もとに金色に光るものが見えました。拾ってみると一枚の小判でした。丹蔵は誰にも話さず、竹でつくった筒の中に入れ神棚にあげておきました。

丹蔵は毎朝この土蔵跡に立ちました。不思議なことに、天気のよい日は小判は見つからず、雨の日には拾うことができました。

いつの間にか丹蔵のおくさんは主人の秘密を知ってしまいました。主人の留守中に神棚の竹の筒を手にとってびっくりしました。ぴかぴか光る小判が五十数枚入っておりました。これだけの小判があれば欲しいものは何でも買える。まだあの土蔵跡には何十枚、いや何百枚もの小判や大判が埋っているに違いない。そうすりゃ我が家は大川原一番の金持ちになれる。ようし主人の留守をさいわい、土蔵跡をかきまわしてみよう。

おくさんは一生けんめいくわをふるって土をおこしました。しかし石ころばかりで小判は一枚も出ませんでした。

夕方丹蔵は山から帰ってびっくりしました。それから後、丹蔵は土蔵跡にはたちよりませんでした。

みんなのひろば

努力は尊し

過日、研修旅行で東京に赴き、日展と宇宙博を見学した。

数多い絵の中で、特選になった絵を見て感じたことは、迫力とそれに併せてすい込まれそうな絵の持つ雰囲気だった。すごいほどの大きな画面に長い年月をかけて描いたであろう労作ばかりだった。

これが私たちと同じ人間がかいたのかと思う程で、努力の結晶に頭のたれる思いがした。

次に宇宙博に行ってみてこれまたおどろいた。巨大な実物大ロケットやその内部の精密な構造、しくみ、どれをみても私たちの想像をはるかに越えたものばかりで、神秘な宇宙の世界と科学の力の偉大さを感じた。こんなすばらしい科学を探究する人たちの脳は、いったいどんなになっているのか。そして次から次へと見ているうちに自分も広い宇宙へ行っているような錯覚さえおこしそうになった。

大熊町も原子力発電の開発により町全体がうるおいつつあるが、頭の片隅では、ちょっぴり危険の心配もないではない。しかしやがてくる電力の不足を考える時、乏しい資源ばかりに頼ってはいられない、日本全土がうるおうのだから……。

日展にしろ、宇宙博にしろ、科学者や専門の人たちが、こつこつと努力と研究を重ね、こんなにすばらしい成果を生み出し開発していく姿こそ、尊い限りであり偉大な何ものにも勝るものである。

私は思う。教え子たちよ、いやこれから生まれてくる若き子たちよ、どんどん勉学にはげみ努力して自分の力をためしてほしい。小さなことから出発してやがて大きな力を生み出し、社会に少しでも貢献してほしい。すべてはたゆまぬ努力と研究からではなかろうか。失敗をしてもいい。何かに没頭できる人生ほどすばらしいではないか。

あちこちで教え子たちが、社会人としていろいろな面で活躍している様子を耳にする時、ああ教師であってよかったと思う。そして自分の力を信じ、一日一日努力を続け、いのちを大切にしていってほしい。

宇宙は広い、人間の力もすばらしい。こんな感想をもちながら、教え子たちの活躍を願って止まない。どの人にも無限の可能性があり、努力してこそ、よろこびのあることを……。

大川原　志賀栄子

書く人・見る人

町の産業文化祭が行なわれた十一月二十三日、私の作品の前に立ち止った観客の方から、「何て書いてあるのかさっぱりわからん」と言われて、「なるほどそういう見方もあるのか」と考えさせられるものがあった。

今ここで、書道とは一体何なのかを説明するよりも、何を考えて毛筆で字を書くことを本気になってやっているかを知って貰った方が良いような気がする。

書も絵画と同じように美術である以上、当然書の美しさを求められる。それは感覚的に、そして精神的な美しさである。

その美しさをどうして表現しようかと苦心しているに過ぎない。

では、どんな考え方で美しさを表現しようとしているのかを、簡略に述べてみると、

先づ感覚的には、

- 明るい美しさと暗い美しさ
- 軽やかな美しさと重い美しさ
- 暖かい美しさと冷たい美しさ
- 潤った美しさと渇いた美しさ
- 動きの美しさと静かな美しさ
- 素朴な美しさと優雅な美しさ
- 稚拙な美しさと巧緻な美しさ
- 澄んだ美しさと含蓄ある美しさ
- 整斉な美しさと複雑な美しさ

などに分けることができるし、又精神的美しさは、人それぞれに違う独自の個性とか、感情の表現更には気品、風流な趣き、情味のこまやかさ、魄力、などがあげられよう。

今、本町でも数多くの方々が真剣に書道と取組んでおられる。その目的は異っていたとしても、美しさを求め、自己修養の一助としていることには変わりはない。

書く人、見る人の何かの足しになれば幸いと思う。

（井戸川　碧水）

俳句

鎌田光子

落葉掃く庭を行き交ふ三輪車
童等のやぶの団栗探しゆく

猪狩静枝

ハイビスカス真紅の生命早や散りぬ
秋の薔薇一枝頂き帰りけり

一戸多磨子

暮市や旅商人の布財布
紅葉路地蔵の笑みのあたたかし

結城千代

菊の香の高き日和も過ぎにけり
秋晴やつきぬ話の友とをり

木村蓉子

往くバスを山路のすすき包みけり
病室の隅に黄菊や暮はやし

千葉公平

はらはらと落つる木の葉の音近し
還暦を迎ふ今年の初日の出

永井善子

ひと逝くや亡き父母を想ふ秋
育みし白菜九月の雨光る

中山安子

しあわせという運遠き枇杷の花
山茶花の花びら反りて雲流る

佐久間信子

いたまずに着きますように梨送る
覚めて読むコスモスの影うごきをり

渡辺政美

落胡桃待たるる如く拾ひけり
穂芒のひかり疲れて戻りけり

高野昭二

指折れば子の帰える頃石蕗咲けり
石蕗咲けることも哀しき盲妻

学校生活の思い出

しばらくぶりで旧熊町中学校のそばを通って、思わず車を止めた。体育館が最後に取りこわされているところだった。この体育館は私達が中学校に入って間もなく新築されたもので、郡内には余りなく、中学校生活の中で一番印象に残るところであるし、いつまでも残しておいてほしい建物の一つであった。

旧熊町中学校は戦後の新制中学校の発足と同時に建てられたもので、幾百、幾千の卒業生を世に出し、数年前に大熊中学校に吸収された。しかし、いまだに大熊中学校を母校という目で見るのには抵抗がある。やはり、三年間生活をした所との違いなのだろうと思う。

旧熊町中は当時二百人前後の規模だったと思うが、上級生、下級生の仲はよく、先生方と生徒との間もぴったりしていたように思う。校舎は、風が吹けば、窓の音がガタガタしたり、雨もりがあったり、こわれた窓ガラスを通して、雪が舞いこんだりした。石炭のストーブになかなか火がつかなくて涙を流しながらストーブ当番をやったのを覚えている。

体育館のことで忘れられないのはクラブ活動のことで、当時、私はバスケット部に入っていた。顧問の馬渕先生がパスミスをすると、ボールをいきなりぶっつけてよこす。大声で「ボールに飛びついてつかめ！」と言われる。緊張の連続であった。しかし、この厳しい生活が、私の性格を練り直したのだなあと思う。先生もクラブの仲間も本当によかったと思う。

中学二年のとき、突然父が事故で亡くなった。同級生が、担任の松本祐然先生とご一緒に励ましにきてくれた。秋の稲刈りのときも大勢できてくれた。母が涙を流しながら語っていたのをいまも覚えている。友達って本当にいいなあと思った。

中学三年生のとき、進学か就職かで迷った。高校に入るより、現金収入のある方を選んだ方がよいのではと思った。担任の先生は、すかさず、進学を進めた。現実の生活にのめり込んでいた自分に、将来への目を開いて下さったのだと思う。

学校というのは建物が立派になったところで必ずしもよい教育はできないように思う。中学時代のことを思い浮かべながらつくづくそう思う。

よき師に恵まれ、よき友に恵まれ、一人一人の人間が立派に成長していくのだと思う。

熊町中学校はそういう意味でも思い出の深い中学校である。

熊町　中野純一

図書あんない

公民館では、子供向きから、成人向きまでたくさんの図書を購入し、図書室に備えてあります。ぜひお気軽にご利用下さい。なお、図書室での閲覧のほか、貸出しも行っております。最近購入した主なものを紹介します。

愛と認識との出発、幸福論、にんにく健康法、秘訣つけもの健康法、世界の民謡等。

白鳥が来たこけしの町

今からちょうど一年前のこと。厳冬の鳴子温泉で数日間体を温めていた時のことだった。国道四十七号線から鳴子温泉郷入口の右手に荒雄川の堰がある。そこに大きな鳥が冬枯れの柳越しに見えた。

何度か鳴子にはお邪魔したことはあったが、白鳥を見たのは初めてである。荒雄川の上流の鳴子ダムには数千羽の水鳥が、冬を過ごしているが、鳴子の町中では見ることは稀である。

宿の主人に白鳥のことを訪ねると、「よくぞ聞いて下さった。」と言わんばかりの意気込みである。「実はあの白鳥は……。」と話してくれたのが、次のような話である。

「昨年の冬、荒雄川の北側にある国立鳴子病院に、一人の老人が入院した。その老人が入院して数日後に、十羽の白鳥がどこからともなくとんできて、長い首を動かしながら、カン高い声で鳴いていた。

鳴子の人々は初めての光景にびっくりした。入院していた老人は実は白鳥じいさんと呼ばれていた方だったのです。瓢湖と共に白鳥で有名な伊豆沼で、何年も前から白鳥に餌づけをしていた白鳥じいさんだったのです。白鳥じいさんが入院したので、白鳥がお見舞にきて、病院の窓から見える川面で、厳しい冬を過ごしたのです。

春になり老人が退院して伊豆沼に帰ると共に、白鳥も北の空に旅立ったのです。この話しで去年の冬はもちきりだったのです。」と話してくれた。

鳴子の人達は親切で、温泉のお湯のように心も温かく、可愛がってくれたのでしょう。次の年には二羽のヒナ鳥を加えて、十二羽の飛来に町の人達は喜んでいたのだった。雪に寒い「こけしのふるさと」での、湯治の湯よりも心に温かさの残る数日でした。

野馬形　一農夫

編集後記

◎師走もおし迫った十二月十七日の新聞。三面記事のトップに「幼い留守番・兄妹焼死」という記事が載った。三歳、二歳、一歳の幼児を部屋に残し外から鍵をかけ若い両親は「夜の勤め」に出て行った。そのあとの惨事だという。

◎それ程までにしてお金をとらなければならないのか。社会が悪いとか、政治の責任だとか言いたい人もいるだろう。しかし、そのまえに「母」としてそれでいいのか、「父」としてそれでいいだろうか。自分の生活をトコトン切り詰めても子供の幸せを願うのが親ではないだろうか。

◎いま館報編集のペンをおき世の「若いお母さん」に向って絶叫したい。「家計さえ豊かになれば幼い子供はどうなってもよいのか」と。子供は母の胸で育つのである。

◎今年こそはと公民館のスタッフも張切っております。家庭教育学級に、高令者大学にそして各種学級講座に。公民館においでいただく時間は惜しまないで下さい。何としてでもつくり出して下さい。

◎館報の原稿をお寄せ下さい。要領は四百字詰原稿用紙一枚程度で

一、主張、産業、教養、文芸に関するもの何でも結構です。

二、政治的な色彩をもたないもの個人非難に属する抽象的でない、建設的なもの。